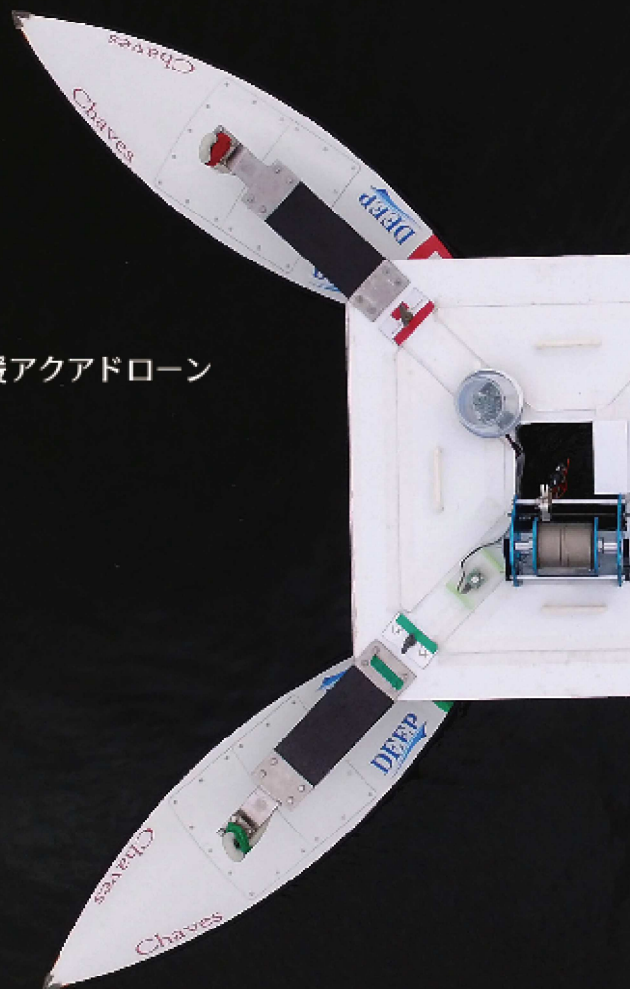


インフラ整備・水産養殖支援アクアドローン

ロボセン



Four features

インフラ整備・水産養殖支援で活躍する ロボセン 4つの特徴



自動航行

プログラミング制御により決められた作業地点への自動航行が可能



定点保持制御技術

その場にとどまる制御技術で風や波浪の環境下で連続した作業が可能



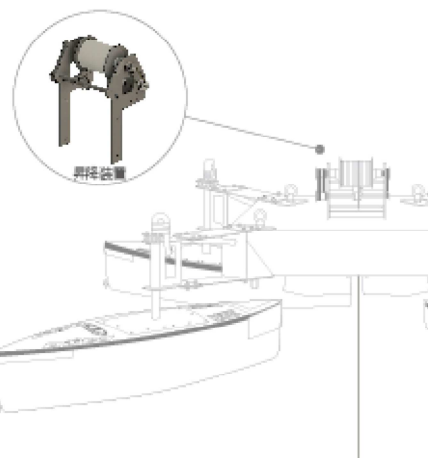
独立回転機構による直角航行

直角航行により狭いエリアでの小回りのきく航行や回避航行が可能



持ち運べる
抜群の機動性

ワンボックスカーに積み込めるサイズに分解し現場で組立可能



■ 船体主要諸元

ハルの水線長 LWL	1187 mm
ハルの最大幅 B	300 mm
ハルの型深さ H	280 mm
重量 (船体+上部構造)	40 kg
積載可能重量	154 kg
直進時の平均船速	1.4 m/s (2.7 kn)

■ 昇降装置諸元

積載可能重量	1.5 kg
昇降速度	0.2 m/s
装置サイズ	320 × 270 × 170 mm
装置重量	3.6 kg
動力電源	DC 12V
計測深度 (設定範囲)	0 ~ 20.0m (0.1m ピッチ)
制御電源	DC 5V

ロボセン
専用サイト

robosen.jp

日本海工株式会社
企業サイト

nipponkaiko.co.jp

※特許出願中 (特願 2016-072969)

※特許取得済「特許第 6332824 号」

※特許出願中 (特願 2018-234930)

※ ロボセン は日本海工株式会社の登録商標です。

※記載された会社名および製品名等は各所有者の商標あるいは登録商標です。

※パンフレット記載内容 2019年2月現在

NIPPON KAIKO 日本海工株式会社

〒650-0032 神戸市中央区伊藤町 119 番地

電話でのお問い合わせ・資料請求 078-391-1792

受付時間 10:00~17:00 (土・日・祝休み)



定点保持形態



計測動作

- ①目標深度まで計測装置を自動降下
- ②規定深度で情報を計測し、次点まで自動昇降させ計測



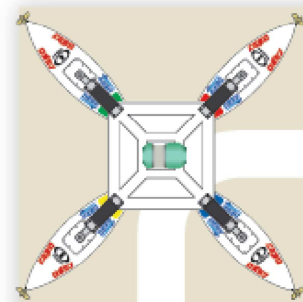
計測内容

水温・塩分濃度・溶存酸素量などの測定が可能

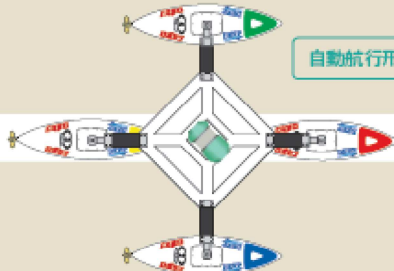
独立回転機構による
直角航行

作業用途に応じた様々な機材を搭載し、海・川・湖など多方面での活用が可能

独立回転機構による
直角航行



自動航行形態



Operational field

水質環境調査

水質環境調査機器を搭載することにより、これまで人の手で行われてきた調査を自動化。より詳細で精密なデータが体力的負担なく収集できるようになります。

生態系調査

水中カメラを装備すれば、牡蠣・海苔・とり貝等の生育状況の調査をプログラミングによって自動で定期的に、くまなく行うことができ作業負担の軽減につながります。

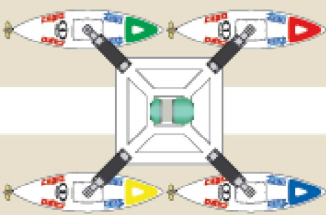
海上工事における環境影響調査

センサーを装備し、海上工事における濁り等の環境変化を自動で監視し、リアルタイムでモニタリングすることで迅速な拡散防止対策につなげることが可能です。

インフラの調査・点検

ソナーなどの点検機器を装備すれば、ダムや湖における堆砂状況等の調査を自動かつ広範囲に行うことが可能です。また、船体が小型で喫水が浅いため（100kg 搭載時・15cm）浅場での調査に最適です。

自動航行形態



定点保持形態

